

## 小児の COVID-19、インフルより合併症多い

専門誌ピックアップ 2021 年 9 月 6 日 (月)配信 呼吸器疾患小児科疾患感染症

欧州(フランス、ドイツ、スペイン)、韓国および米国のリアルワールドデータを用いて、2020 年 1 月から同年 6 月までの間に新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の診断を受けた 18 歳未満の患者の 30 日転帰を評価。2 次解析で、2017-18 年に季節性インフルエンザと診断された小児の転帰と比較した。COVID-19 診断児計 24 万 2158 例、COVID-19 入院児 9769 例、インフルエンザ診断児計 208 万 4180 例を対象とした。

COVID-19 入院児の方が COVID-19 診断児よりも、神経発達障害、心疾患、がんなどの併存疾患が多かった。COVID-19 診断児の方がインフルエンザ診断児よりも、呼吸困難、細気管支炎、嗅覚消失、消化管症状が多く認められた。

COVID-19 の院内治療には、主に転用薬(10%未満)と補助療法[全身性副腎皮質ステロイド 6.8-7.6%、ファモチジン 9.0-28.1%、抗血栓薬(アスピリン) 2.0-21.4%、ヘパリン 2.2-18.1%、エノキサパリン 2.8-14.8%)]が用いられていた。COVID-19 診断児の 0.3-1.3%が入院したが、30 日後死亡率は検出できなかった(各データベース 5 例未満)。COVID-19 診断児では、肺炎や低酸素血症などの 30 日転帰がインフルエンザ診断児より多かった。